

## 2021年 濱口梧陵国際賞受賞者

松富 英夫教授

秋田大学名誉教授／中央大学研究開発機構客員教授



松富教授は、長年に渡り、津波の挙動に関する研究を行ってきた。1995年からは国際測地学地球物理学連合 IUGG の津波委員会の委員として活躍し、津波の発生メカニズムや被害軽減について国際的に貢献した。国内においても、2014年から建築学会津波荷重小委員会で委員を務め、氾濫流速や漂流物衝突力の推定式を提案し、この式は「松富の式」として広く知られることになり、秋田大学では地域防災力研究センターを立ち上げ、センター長を務めてきた。国土交通省東北地方整備局リバーカウンセラー等を務めて津波や洪水の被害軽減に貢献し、秋田県男鹿市の防災アドバイザーとしても被害軽減に尽力して、2017年の土木学会東北支部設立 80 周年記念式典では「土木学会東北支部賞（功労賞）」を受賞した。

Gerassimos A. Papadopoulos 博士 国際自然災害防止・軽減学会会長、前アテネ国立天文台研究部長



Papadopoulos 博士は、津波科学の研究や津波リスクの啓蒙と軽減策で世界的にも著名な津波研究者である。世界の多くの国の科学者と緊密な協力関係を築いてきた。ベルリン日独センターの支援を得て 1993年に防災科学技術研究所で学び、2001年には東北大学と共同で津波強度のスケールを導入して津波科学に貢献し、2004年には日本地球惑星科学連合中核的研究拠点の支援を得て同大学の客員教授を務めた。ヨーロッパ地中海地域の津波分野において主要な科学者の1人である。150編の論文を執筆し、そのうち約15編が科学ジャーナルに掲載されている。その活動は自国だけでなく国際的にも津波リスクの啓蒙に貢献した。ユネスコ政府間海洋学委員会／北東大西洋・地中海津波早期警報システムの共同創設者であり、2017年から2020年までは議長を務め、そこでヨーロッパ地中海地域津波警報システムを適切に管理した。

太平洋津波博物館（アメリカ）



太平洋津波博物館 Pacific Tsunami Museum は、1994年にハワイに設立された、世界で最も歴史ある津波博物館の一つである。1946年にアリューシャン、1960年にチリで発生した津波によるハワイの惨状を人々に教えることにより、これら悲劇の記憶が忘れられることなく、次世代に伝承されることを目的に設立された。この四半世紀にわたって、津波の恐ろしさを住民や訪問者に伝える取り組みを絶やさなかった。かつてアリューシャン地震の津波が襲った4月は「津波の月」Tsunami Awareness Month に定められ、津波警報の基礎知識を広め、避難地図を配布し、住民と一緒に安全な避難場所を探してきた。学校用の津波の履修科目を作り、津波の科学研究を奨励し、メディアが命にかかわる情報を正確に報道するための教本も配布した。津波災害の軽減や備えに対する貢献は大きく、将来を担う世代に津波災害の教訓を伝承する先駆的組織である。